

## 所 報

### I. 所員の移動についての報告

昨年度に引き続き、千葉果弘教授が研究所長を務める。1954年より英語教育の研究と指導にあたってこられた小林栄智先生が1996年3月をもって御退官された。一方、1996年4月1日より磯崎三喜年準教授（心理学）をお迎えしている。現在、当研究所員は18名を数える。

### II. 研究所活動報告（1995年9月1日～1996年8月31日）

#### 1. 研究活動

- (1) 国際基督教大学研究助成基金補助金による「諸外国における高等教育機関の選抜制度についての調査」の継続  
報告書『諸外国における高等教育機関の選抜制度』（1996）を発行。
- (2) 識字や教育と開発の問題に関心を持つ学内外の学生・社会人の自主的研究会であるリテラシー研究会の基点としてその活動を助言・指導し、『なぜ識字か：発展途上国からの報告』（千葉果弘編著 国際基督教大学教育研究所・リテラシー研究会）発行の準備を進めてきた。

#### 2. 講演会

1996年4月18日：久保田宏明氏（駒場東邦中高等学校長）

「海外に日本人学校を設置する基準と課題」

1996年5月23日：北谷勝秀氏（UNDP高級顧問）

「国家再建のための教育制度再建に対する援助の手法：UNDPの経験を  
中心に」

### 3. 学会発表

- (1) 小島文英・千葉果弘 「アジア近隣諸国の大学入試制度の比較研究」  
日本比較教育学会第32回大会（青山学院大学 1996年6月14～16日）
- (2) 小島文英・石田純子・千葉果弘 「日本の大学における国際理解教育：学生の授業評価にみられる学生の途上国に関する意識の調査」  
日本国際理解教育学会第6回大会（帝塚山学院大学 1996年6月22～23日）

### 4. その他

- (1) 地域社会の国際交流への協力  
日中書法研究交流会主催の日中友好交流書道展（旧東京都調布市中央公民館 1995年9月28～30日）ならびに合同実技研修（本学 1995年10月1日）開催支援
- (2) 開発教育資料室設置  
日本における開発教育の先駆者である故室靖氏の遺族より故人の蔵書を寄贈された（1996年7月）のを機に着手した。

### 5. 所員・研究員（1996年4月1日～1997年3月31日）

#### (1) 所員

阿久津喜弘	（教授，教育工学・コミュニケーション）
千葉 果弘	（教授，教育学）
B. C. デューク	（教授，教育学） 1996年4月1日より客員教授
藤永 保	（教授，心理学） 1996年4月1日より大学院教授
石本 菅生	（教授，教育工学・コミュニケーション）
小谷 英文	（教授，心理学）
栗山 容子	（教授，心理学）
J. C. マーハ	（教授，英語教育）
P. B. マツキャグ	（教授，英語教育）
中野 照海	（教授，教育工学・コミュニケーション）
立川 明	（教授，教育学）

- R. H. スラッシャー (教授, 英語教育)  
 林 昭道 (準教授, 教育学)  
 磯崎三喜年 (準教授, 心理学)  
 D. W. ラッカム (準教授, 心理学)  
 町田 健一 (助教授, 教育学)  
 王 淑英 (助教授, 教育工学・コミュニケーション)  
 向井 敦子 (講師, 心理学)

## (2) 研究員 I (Research Fellows)

- 1) 影山 礼子 勤務先: 国際武道大学一般教育部教授  
 研究課題: 近代日本教育思想史 (成瀬仁蔵の教育思想)  
 保証人: 千葉果弘教授
- 2) 川津 茂生 勤務先: 国際武道大学一般教育部助教授  
 研究課題: 認知心理学と心理学の哲学  
 (公の公共性と認知主義に関する研究)  
 保証人: 栗山容子教授
- 3) 鬼頭 當子 勤務先: MK図書館研究所所長  
 研究課題: 国際基督教大学修士論文に掲載された参考文献の分析  
 保証人: 千葉果弘教授
- 4) 松田 憲 勤務先: 亜細亜大学英語教育研究所  
 研究課題: 大学の留学プログラムの参加前後における学生の異文化  
 に対する認識およびあいまい耐性の統計分析  
 保証人: ランドルフ H. スラッシャー教授
- 5) 武藤小枝里 勤務先: UNV-UNDP-ルワンダ  
 研究内容: 国家復興のための教育政策への国際協力: 国連, ODA,  
 NOGsの協力: ルワンダを事例として  
 保証人: 千葉果弘教授
- 6) 永田 佳之 勤務先: 国立教育研究所研究員  
 研究課題: 教育分野における国際協力  
 保証人: 千葉果弘教授
- 7) 中村 優治 勤務先: 調布学園女子短期大学英語英文学科助教授  
 研究課題: Language Testing  
 (Developing a Speaking Test, Developing a Listening Test,  
 Application of IRT (Item Response Theory))

- 保証人： ランドルフ H. スラッシャー教授
- 8) 大井 直子 勤務先： 東京都老人総合研究所非常勤研究員  
研究課題： 1. 価値観研究  
2. 中高齢者における社会的支援のストレス・バッファ  
効果
- 保証人： 藤永保教授
- 9) 岡林 秀樹 勤務先： 東京都老人総合研究所保健社会学部門研究員  
研究課題： 生涯発達心理学, 教育心理学, 保健社会学  
保証人： 藤永保教授
- 10) 苦米地憲昭 勤務先： 国際基督教大学カウンセリングセンター室長  
研究課題： 1. 青年期における自己意識の発達について  
2. 学生カウンセリングの意味について  
保証人： デイビッド W. ラッカム準教授
- 11) 渡辺 淳 勤務先： 国際基督教大学高等学校社会科教諭  
研究課題： 1. 日本における国際教育の展開とその教育史的意義  
2. 社会科教育における教育方法の国際比較  
保証人： 千葉果弘教授

### (3) 研究員Ⅱ (Research Associates)

- 1) 権藤 桂子 最終学歴： 米国コロラド大学大学院コミュニケーション障害・言語  
科学科修士課程修了  
勤務先： 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程在学中  
研究課題： 乳幼児のコミュニケーションの発達  
保証人： 藤永保教授
- 2) 原 和子 最終学歴： お茶の水女子大学理学部物理化学科卒業  
研究課題： 異文化体験のライフコース分析 (帰国子女の追跡調査)  
保証人： 栗山容子教授
- 3) 服部 純子 最終学歴： 国際基督教大学教育学修士 (教育心理学)  
研究課題： 南畿三地域に於ける伝統的職業文化と住民意識  
保証人： デイビッド W. ラッカム準教授
- 4) 石井 由理 最終学歴： ロンドン大学教育研究所比較教育学博士課程修了  
勤務先： 国際基督教大学教育研究所助手  
研究課題： 北欧の学校教育における他国・他文化理解の政策  
保証人： 千葉果弘教授

- 5) 石渡 実絵 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）  
勤務先： 狛江市教育研究所適応指導教室指導員  
研究課題：協力を必要とする2人ゲーム遊びにおける遊び戦略の発達の検討  
保証人： 栗山容子教授
- 6) 上別府隆男 最終学歴：M.A., School for International Training  
（米国バーモント州）  
勤務先： メリーランド大学教育学部教育政策・計画・管理学科  
博士課程在籍  
研究課題：異文化・国際教育及び途上国の教育開発における政策について  
保証人： 千葉果弘教授
- 7) 叶谷 彰子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（視聴覚教育）  
研究課題：マルチメディア教材の構成技法の差が学習過程におよぼす効果に関する研究  
保証人： 中野照海教授
- 8) 小島文英 最終学歴：M.A.（ジョージワシントン大学）  
勤務先： 国際基督教大学教育研究所助手  
研究課題：開発と教育  
保証人： 千葉果弘教授
- 9) マタノ 石田 純子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）  
勤務先： コロンビア大学大学院在学中  
研究課題：海外在住経験のある日本人および留学生の対人関係について  
保証人： 藤永保教授
- 10) 南之園博美 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（視聴覚教育）  
研究課題：日本語読解過程の研究および読解教育  
日本語教育におけるマルチメディア利用  
保証人： 中野照海教授
- 11) 萩原 美文 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）  
勤務先： 品川区教育相談センター  
研究課題：幼児・児童の対人交渉能力の発達  
保証人： 栗山容子教授
- 12) 斉藤 哲 最終学歴：国際基督教大学教育学修士（教育心理学）

勤務先： 榊栄光 幼児アドバイザー

研究課題：乳幼児の社会性の発達

保証人： 藤永保教授

13) 杉山恵理子 最終学歴：国際基督教大学教育学修士

勤務先： 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程在学中

研究課題：精神分裂病の集団精神療法

保証人： 小谷英文教授

14) 田中 幸子 最終学歴：横浜国立大学教育学修士

勤務先： 横浜商科大学非常勤講師

研究課題：Computer Assisted English Language Learning

保証人： 石本菅生教授

## 6. 助 手

1996年6月： 石田純子助手退任

(1) 小島文英 国際教育 ジョージワシントン大学 M.A.

(2) 石井由理 開発教育 ロンドン大学 Ph.D. (1996年9月着任)

## Ⅲ. 研究室活動報告 (1995年9月～1996年8月)

### <教育哲学研究室>

#### 1. 人の動き

1996年3月： 原田一成副手退任，岡山県山陽高等学校英語科専任教員に就任

武藤小枝里副手退任，国連ボランティアとしてルワンダに着任

田山裕丈副手退任，常陽銀行に就職

1996年4月： 田中知雄，教育学研究科副手に着任

増山晶子，佐々木美和子，新井元，小林和恵，教育学科副手に着任

## 2. 研究活動

### (1)講演会

1996年4月18日：久保田宏明氏（駒場東邦中高等学校長）

「海外に日本人学校を設置する基準と課題」

1996年5月23日：北谷勝秀氏（UNDP高級顧問）

「国家再建のための教育制度再建に対する援助の手法：UNDPの経験を中心に」

### (2)研究会・その他

1995年9月23日：大学院教育哲学研究室研究会（修士論文中間発表を中心に）

1996年2月3日：教育学科教育学専攻生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文発表会

1996年5月25日：大学院教育哲学研究室研究会（新入生の研究計画・修士論文中間発表を中心に）

1996年8月5日－6日：第18回ICU教育セミナー（フロラシオン青山にて、卒業生教員、学部生、大学院生、及びICU教員が参加）

## ベンジャミン C. デューク 教授

### Research Topics:

①Japanese Education in the Modern Era, The Early Connections, 1872-1890 (For book publication)

②Asian Education and Leadership for the 21st Century (For book publication)

### Publication:

① "The Japanese in Washington- 1872," Japan Quarterly January, 1996.

## 千葉 果弘 教授

## 研究活動

## I. 国際理解教育

- ①日本国際理解教育学会第6回総会研究大会 1996年6月22日
- ②日本の大学における国際理解教育  
——学生の授業評価にみられる学生の途上国に関する意識の調査（共同調査 小島  
英文, 石田純子）
- ③アジア太平洋地域国際教育価値教育  
ネットワーク専門家会議（APNIEVE）  
マラッカ, マレーシア 1996年7月1日－6日
- ④国際理解教育の理念研究（ユネスコの理念）  
（I）ユネスコアジア太平洋地域教育事務所（バンコク） 1996年6月27日－29日  
（II）ユネスコ本部（パリ） 1996年8月27日－30日
- ⑤ 日本国際理解教育学会研修スタデーツアー（コーディネーター）  
（I）事前研修会（東京） 1996年8月19日  
（II）UNDCP, UNIDO ウィーン 1996年8月20日－21日  
（III）WHO, ILO, UNHCR, UNV, UNESCO/IBE, ジュネーブ 1996年8月22日－23日  
（IV）ユネスコ本部： 1996年8月26日

## II. 識字教育, Education for all, 開発

- ①国際識字10年中間年  
NGO世界会議（東京） 1995年9月5日－8日  
—全体会議議長  
—世界寺子屋運動について発表
- ②国際識字10年中間年評価会議  
ユネスコ・ユニセフ, UNDP, 世界銀行（アンマン・ヨルダン） 1996年6月16日  
－20日  
—Civil Societyとの関係の分科会の議長をつとめる
- ③ユネスコ・アジア太平洋地域の教育  
政府間委員会（第1回会合）（バンコク） 1996年6月24日－26日  
—日本政府代表  
—副議長に選出
- ④中華人民共和国民間ユネスコ協議会（長春） 1996年8月11日－16日



### Ⅲ. 大学入試制度：大学改革問題研究

- ①イギリスの大学入試研究調査 1996年7月10日－17日
- ②フランスの大学入試研究調査 1996年7月18日－22日
- ③スイスの大学入試研究及び国際バカロリアの制度の調査 1996年7月23日－24日
- ④オーストリアにおける大学入試制度の調査 1996年7月25日－26日

### 著書論文

- ①The World Terakoya Movement: Sharing The Joy of Living and Learning Together: World Conference of NGOs: Mid Term Review of International Literacy Decade (1995年9月): pp 1-29
- ②“Alphabétisation des femmes en Afrique” 1995年11月
- ③「国際化と教育研究所の新しい役割」『教育研究』（国際基督教大学教育研究所紀要）38号（1996年3月）:pp 9-22
- ④“International Literacy Watch: Warning against Lip Service” World Conference on Literacy, ILL, Pennsylvania Univ. 1996年3月
- ⑤『諸外国における高等教育機関の選抜制度』ICU教育研究所（共著 小島文英）1996年6月
- ⑥UNESCO-UNEP Environmental Education Newsletter 「Connect」日本語版監訳 Vol XIX No.1-4 1990年3月

### 講演等

- ①国連協会 国際理解教育作文コンテスト審査員 1995年9月28日
- ②「女性と識字」JICA経済企画庁 フランス語圏アフリカ女性指導者研修会 1995年11月10日
- ③「世界寺子屋運動」名古屋国際センター 1995年11月11日
- ④「国際化と外国の文化理解」花巻学び学園シニア大学院講座 1996年1月8日
- ⑤「グローバリゼーションと民族文化」ヨーロッパ・セッション 国学院日本文化研究所主催 シンポジウム コーディネーター 1996年1月12日
- ⑥「国際化に対する教育を求めて」鳴戸教育大学教育文化フォーラム 1996年1月20日
- ⑦「すべての人が読み書きできるように」浜松ユネスコ国際交流研究会 1996年3月9日
- ⑧「世界の識字と寺子屋運動」国際ロータリー第2771地区大会（大宮） 1996年4月13日

- ⑨「女性と識字」国立婦人教育会館 海外女性指導者研修会議 1996年7月31日
- ⑩「教育の原点・人間の原点！ いじめの背景を探る」第28回野村生涯教育全国大会  
分科会助言者 1996年8月5日
- ⑪「世界的教育危機を考える」野村生涯教育・国際シンポジウム 討議モデレーター  
1996年8月6日
- ⑫ユネスコ活動功労者表彰，文部大臣 1995年11月16日

#### その他

- ①日本ユネスコ国内委員会委員
- ②同アペイド・アピール分科会主査
- ③日本ユネスコ協会連盟理事
- ④同世界寺子屋委員会委員長
- ⑤日本国際理解教育学会理事
- ⑥野村生涯教育センター顧問
- ⑦アジア太平洋地域国際教育・価値教育ネットワーク (APNIEVE) 事業担当副会長
- ⑧中国吉林省ユネスコ協会顧問
- ⑨中国吉林省北国書画伝高級顧問
- ⑩日本国際交流振興会理事

### 立川 明 教授

#### 研究活動

アメリカ合衆国およびヨーロッパでの大学の歴史を，教養教育と専門教育との関連に焦点をあわせて研究をすすめている。

#### 学会参加

国内において日本教育学会，教育史学会，一般教育学会等に参加した。

#### 著作

- ①「アラン・ブルームの近代・現代大学論」中村雅子編『アメリカ多元文化社会における国民統合と教育に関する史的研究』平成7年度科研研究成果報告書，1996年3月，246-256。
- ② “The Educational Significance of the American Seminar Method.” ICU Educational

Studies, 38, 1996, 23-39.

- ③「教育の本質」田原迫龍磨・仙波克也編『教育原理総説』コレール社, 1996年3月, 24-36.
- ④「日本教育史の教材としての自殺統計」『一般教育学会誌』18巻1号, 1996年5月, 27-33.

#### その他

- ①米国History of Education Quarterly誌編集委員
- ②教育哲学会 『教育哲学研究』誌編集委員・英文校閲
- ③日本教育学会 『教育学研究』誌編集委員

### 林 昭 道 準教授

#### 研究活動

- ①ヨーロッパの近代以降の教育思想の検討
- ②①に合わせて、教育学の諸概念の成立とその歴史的背景の検討
- ③キリスト教教育思想史。啓蒙時代以降

### 町 田 健 一 助教授

#### 研究活動

- ①初等・中等教育レベルにおける私立学校調査
  - ・建学の精神とその取り組みの歴史
  - ・一貫教育の意義と問題点
  - ・寮教育の意義と問題点
- ② 教員養成に関する研究
  - ・教育実習体験の実証的研究：態度変容についての日誌分析
  - ・キリスト教学校教育における教師教育の課題
- ③教育課程の革新とその実施に関する研究
- ④数学教育研究
  - ・数学教育の目標論及び教育内容の精選と構造化
  - ・問題解決過程における効果的な内言形成

- ・コンピューター教育の目的と問題点
- ⑤ 生徒指導に関する研究
  - ・道徳教育における教育哲学と問題点
  - ・性教育における教育哲学及び教育内容

#### 学会及び研究大会参加・発表

- ①ユネスコ50周年記念国際シンポジウム「諸外国のカリキュラム改革の動向」参加（国立教育会館）1995年9月13日
- ②キリスト教学校教育同盟 大学部会 研究集会参加（ホテルアーサー札幌，北星学園大学）1995年10月19日～20日
- ③日本教師教育学会 第5回大会参加（筑波大学）1995年10月29日
- ④日本数学教育学会 第28回 数学教育論文発表会参加（広島大学）1995年11月12日
- ⑤関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会・東京地区教育実習研究連絡・協議会  
1996年度研究大会（武蔵大学）1996年5月12日
  - ・発表：「教育実習体験の実証的研究—研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して—」
- ⑥日本キリスト教教育学会 第8回大会（女子学院）1995年5月27日
  - ・発表：「キリスト教主義学校における建学の精神堅持のための課題—小学校・中学校・高等学校の現状比較から—」

#### 研究論文

- ①「私立高等学校の“建学の精神”に関する研究」『教育研究』第38巻，1996年3月31日，41-61頁（岡林秀樹，原田一成，目黒賢哉，高瀬香織との共同研究）
- ②「キリスト教主義学校における建学の精神堅持のための課題—小学校・中学校・高等学校の現状比較から」『日本キリスト教教育学会第8回大会発表論集』1996年5月25日，16頁

#### 翻訳

- ①（分担訳）Rosalinda Alfaro-LeFevre「第2章 クリティカル シンキングの方法」『アルファロ看護場面のクリティカル シンキング』1996年8月15日，21-41頁

#### その他

- ①研究会参加：東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会研究会（立教大学），1995年9月21日
- ②研究会発表：「教育実習体験の実証的研究—研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して—（1）」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会研究会（国際基督教大

学), 1995年11月13日

③研究会発表:「教育実習体験の実証的研究—研究授業のビデオと実習日誌の分析を通して—(2)」東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会研究会(明治学院大学), 1996年1月24日

④C-Week FS-Talk パネラーとして参加(国際基督教大学), 1996年5月21日:「人間の尊厳—いじめの中に浮かび上がってくる人間の尊厳の問題(学校教育のあり方を考える)」

⑤研究会参加:東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員会研究会(明治学院大学), 1996年7月15日

⑥研究会参加:放送開発センター教材研究室研究会(放送大学東京連絡所), 1996年7月30日,「教師教育教材の制作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録及び分析方法について(1)(ビデオ教材作成)」

⑦第19回ICU教育セミナー参加・発表:「不登校とその背景—いじめの問題をその中心にすえて」ICU教育研究会(ホテル フロラシオン青山) 1996年8月5日—6日

⑧研究会参加:放送開発センター教材研究室研究会(放送開発センター), 1996年8月12日,「教師教育教材の制作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録及び分析方法について(2)(ビデオ教材作成)」

⑨研究会参加:放送開発センター教材研究室研究会(三鷹第2中学校), 1996年8月23日「教師教育教材の制作と評価分析—国際基督教大学学生による教育実習の記録及び分析方法について(3)(ビデオ教材作成)」

⑩研究委員等:

(1) 放送開発センター 研究協力者 1996年度

(2) 東京地区教育実習研究連絡協議会 研究委員 1993年2月～

(3) ICU教育セミナー 世話人(準備委員) 1992年4月～

## 〈心理学研究室〉

### 1. 人の動き

#### (1)学内人事

1996.3.31 丹羽絵美子, 星野法昭, 加藤直子, 甲田真砂子, 夏目恵美子, 山岸可奈, 横山祐子, 非常勤副手を退任。

1996.4.1 岡田恵美子, 権藤桂子, 杉山恵理子, 鍛冶龍男, 飯島久美子, 非常勤副手に就任。

大井直子, 井上純子, 前年度に引続き非常勤副手に就任。

1996.6.30 杉山恵理子, 非常勤副手を退任。

## (2)非常勤講師

1995 秋学期	苦米地憲昭	(ICUカウンセリングセンター主任)
		「EPS320 思春期・青年期心理学」
	池田 央	(立教大学教授)
		「GEPS453 教育心理学演習Ⅱ」
1995 冬学期	永田 良昭	(学習院大学教授)
		「EPS170 社会心理学」
	原 一雄	(亜細亜大学教授)
		「EPS201 心理学概説」
	鳥居 修晃	(聖心女子大教授)
		「EPS352 知覚心理学」

## 2. 研究活動

### (1)心理学談話会・講演会

1995.12.12 心理学フォーラム  
「心理臨床家としての家庭裁判所調査官」  
室城隆之先生  
於 本館 252号室 出席者 50名

1996.2.15 心理学フォーラム  
「ICUの過去, 現在, 未来」  
大井直子副手  
於 本館 214号室 出席者 10名

1995.5.21 心理学フォーラム  
「自己価値と社会行動」  
磯崎三喜年準教授  
於 本館 252号室 出席者 27名

1996.6.4 心理学コロキウム

「脳と心」

Dr.Edward L.Pinney 出席者 60名

於 ERBII-108

1996.6.27 心理学フォーラム

「文化の多様性と心理的充実感の関係：教育研究・実践におけるこれからの課題」

笹尾敏明先生

於 本館205号室 出席者 25名

## (2)論文発表会

1995.9.9 卒業論文中間発表会

1996.1.23 修士論文発表会 (発表者 8名)

2.8 卒業論文発表会 (発表者 1名)

2.13 卒業論文発表会 (発表者 25名)

5.21 6月卒業生修士論文発表会 (発表者 山岸可奈)

5.21 6月卒業生卒業論文発表会 (発表者 1名)

6.4 6月卒業生卒業論文発表会 (発表者 1名)

6.11 卒論計画書発表会

6.18 修士論文中間発表会

## (3)心理学サマーセミナー

1996.7.2～7.4 (2泊3日)「ココロかカラダか」

於 八王子セミナーハウス

参加者 教職員3名, 院生・学部生54名

(実行委員長：武野顕吾, アドヴァイザー：向井敦子)

## 3. その他

1996.2.23 非常勤講師慰労会 於 聘珍樓

## 藤 永 保 教授

### 研究活動

- ①国際学術研究「日韓乳幼児における母子相互作用の比較文化的研究」を3年間にわたって行い1996年3月終了。
- ②発達科学研究教育センターより「初期環境と認知発達」に関する研究で奨学寄付金をうけ、引き続き幼児の数量概念の獲得と新規にダウン症児の早期療育についての研究を行う。
- ③安田生命社会事業団より「早期治療教育がダウン症状改善に寄与する要因の研究」につき1995年度研究助成を受け、ダウン症状改善の臨界期問題についての研究を行う。
- ④発達心理学会分科会「発達基礎論研究会」（会員数45人）を主宰し、隔月1回の定例研究会を開く。

### 学会発表・参加

- ①シンポジウム「自己意識と行動規範に関する比較文化的アプローチ」指定討論者  
日本心理学会第59回大会，琉球大学，1995年10月15日
- ②シンポジウム「母性と父性を考える」指定討論者 関西心理学会第107回大会，大阪学院大学，1995年11月12日
- ③シンポジウム「発達とカウンセリング」発題者 日本発達心理学会第7回大会，埼玉大学，1996年3月30日
- ④「日韓比較研究の5年間」発達基礎論研究会，発達科学研究教育センター，1996年1月26日
- ⑤招待講演「The Past, Today and Tomorrow of Japanese Developmental Psychology」韓国発達心理学会特別部会，成均館大学校，1996年6月26日
- ⑥招待講演「Moral Development, Socialization and Attachment Systems」韓国心理学会第50回記念国際学会，1996年6月28日
- ⑦安田社会事業団研究発表会「早期治療教育がダウン症状改善に寄与する要因の研究」安田生命アカデミア，1996年7月27日
- ⑧ポスター発表およびシンポジウム参加「A Cross-Cultural Study of Mother-Infant Interaction between Japan and Korea : (4) Cross-Cultural Comparisons of Human Attachment Systems Among Five Asian and Western Countries」International Society for the Study of Behavioral Development, 16th Biennial Meeting, Quebec City, Canada, 1996年8月15日



### 著作活動

- ①「初期記憶の研究（４）－性差について（続）」『発達研究』第11号，1～9頁，1995年12月
- ②「数量概念の発達に関する縦断的研究（３）」（共著）『発達研究』第11号，11～22頁，1995年12月
- ③「ダウン症児の知的教育に関する予備的調査－学校外教育の指導者に対する質問紙調査」（共著）『発達研究』第11号，23～34頁，1995年12月
- ④『日韓乳幼児における母子相互作用の比較文化的研究』（編著）国際学術研究報告書，1996年3月，国際基督教大学
- ⑤「日常の人間学」『エデュケア21』連載講座，栄光教育出版，1995年8月より連載中
- ⑥「ロボットから人間の成長について考える」『えれきてる』58号，2～18頁，1995年12月

### その他

- ①「幼児の成長とベッド・タイムストーリー」茅ヶ崎市南湖公民館講座，1995年9月20日
- ②「子どもの心はどこにある」母子愛育会講座，愛育幼稚園，1995年11月18日
- ③「幼児教育を考える」市川私立幼稚園協会講座，1996年1月24日

## 栗山 容子 教授

### 研究活動

- ①低出生体重児のフォローアップスタディ：5歳時の母子観察及び子どもの発達検査を実施。3歳までの言語データについて，母親の言語的社会化方略と子どもの言語発達の関連性を縦断的に分析，検討している。
- ②親の子どもに対する社会化方略と子どもの発達に関する縦断的観察研究：正常な発達をしている36ヶ月時の母子観察と，発達に遅れのある2ケースの家族観察を実施している。JCHAT/CHILDESによる言語データの入力，分析を実施。
- ③英語聴解力テストに関わる諸要因の分析的研究

### 学会発表

- ①「絵本場面の1～3歳の言語と母親の働きかけ－乳幼児の社会化にかかわる母親の方略」（発表者，共同研究）
- ②「2－3歳児との見立て遊びにおける母親の行動－乳幼児の社会化にかかわる母親

の方略」(星三和子他と共同発表)

- ③「型はめ遊びにおける目標達成に向けての親の働きかけ—乳幼児の社会化にかかわる母親の方略」(瀬戸淳子他と共同発表)

以上、日本教育心理学会第37回総会 1995. 9. 28-30 茨城大学

- ④「ジェンダーと子どもに対する働きかけの関連—父親と母親の子どもに対する働きかけ方略の実証的研究(2)」日本心理学会第59回総会大会 1995. 10. 11-13 沖縄コンベンションセンター

- ⑤「英語聴解力テストに関わる要因の分析」『多変量データ解析の利用による大学入試データ解析システムの開発』研究集会 文部省大学入試センター 1995. 11. 24-25

- ⑥「12ヶ月児における父子、母子間の音声的コミュニケーションの分析—父親・母親の社会化方略と子どもの発達(2)」(大伴潔と共同研究) 日本発達心理学会第7回大会 1996. 3. 28-30 埼玉大学

- ⑦「21ヶ月及び30ヶ月時の異なる相互交渉相手への発話の分析—父親・母親の社会化方略と子どもの発達(3)」 日本発達心理学会第7回大会 1996. 3. 28-30 埼玉大学

#### 論文・著作

- ①「ビー玉獲得課題を用いた2人ゲーム遊び方略の発達」(荻原美文, 足立実絵と共著) 発達心理学研究, 1996年, 第7巻1号, p.52-61.  
 ②「英語聴解力テストに関わる要因の検討」(小林栄智と共著) 国際基督教大学学報 I-A『教育研究』vol.38, p.63-79.

#### 報告書

「英語聴解力テストに関わる要因の分析」『多変量データ解析の利用による大学入試データ解析システムの開発』 1996. 3 p.57-65. 研究助成文部省科学研究費総合A (研究代表者 文部省大学入試センター 柳井晴夫)

#### その他の活動

- ①公開講演会「ピンクのパンはいちごパン?—子どもの遊びの発達心理学的研究—」 於ICU図書館セミナールーム 1996. 2. 20  
 ②研究集会『多変量データ解析の利用による大学入試データ解析システムの開発』に参加 文部省大学入試センター 1996. 3. 1  
 ③CHILDES/JCHAT ICU Workshop 主催 於ICU総合学習センター 1996. 3. 27  
 ④CHILDES/JCHAT Workshop'96 実行委員 於慶応大学 1996. 8. 1-3  
 ⑤XIVth Biennial Meeting of ISSBD (International Society for the Study of Behavioural

Development) 1996. 8. 12-16. Quebec City, Canada 参加

## 小谷 英文 教授

### 研究論文

- ①「精神分裂病を中心とした慢性的精神障害者の集団精神療法：基本枠組みと技法構成」『集団精神療法』第11巻第2号，1995年，127-137頁
- ②（共著）「集団精神療法効果の実証的研究の成果」『集団精神療法』第11巻第2号，1995年，147-153頁（共著者 西村馨）
- ③「息子にとっての父親」『児童心理』金子書房，1995年12月，103-110頁

### 著書

- ①（分担執筆）田中富士夫編『新版臨床心理学概説』第12章「集団療法」北樹出版，1996年5月，160-171頁

### 翻訳

- ①S.タットマン「集団精神療法が可能にする独特な治療的機會」『集団精神療法』第11巻，第2号，1995年，113-126頁

### 共訳

- ①佐治守夫・都留春夫・小谷英文訳 M.キッセン著『集団精神療法の理論：集団力学と精神分析学の統合』誠信書房，1996年6月，454頁

### 研究発表

- ①ワークショップ「力動的集団精神療法の基礎技法」日本心理臨床学会第14回大会，九州大学，1995年10月7日

### 講演・ワークショップ

- ①カウンセリング実技指導「面接法」心理相談員研修会，東京，1995年9月17日
- ②座長・コメンテーター 日本心理臨床学会第14回大会，九州大学，1995年10月9日
- ③（共同研究）「分裂病の集団精神療法：治療者の欠席を巡る一考察」日本集団精神療法学会第13回大会，於調布市，1996年3月30日（共同研究者 杉山恵理子）
- ④パネルディスカッション基調スピーカー「集団精神療法の研修システムについて」

日本集団精神療法学会第13回大会，於調布市，1996年3月30日

- ⑤Invited panel speaker, "Psychotherapy Present and Future: The Future of Psychotherapy from a Trans-cultural Perspective", Issue Workshop "The Future of Psychotherapy", 149th Annual Meeting of American Psychiatric Association, New York city, 1996, May 9th.
- ⑥集団精神療法実技指導，新潟県立病院悠久荘，1995年11月30日
- ⑦「傾聴技法の理論と実際」静岡県精神保健センター・静岡県精神保健協会「産業精神保健講座」1995年12月17日
- ⑧集中講義「臨床心理学」富山大学人文学部心理学科，1996年2月10-12日
- ⑨「PAS心理療法の基礎」横浜いのちの電話1日トレーナーズワークショップ，横浜市，1996年3月13日
- ⑩「集団療法の基礎理論と基礎技法 ―グループワークから集団療法まで―」精神保健業務従事者研修会（集団療法実践コース），滋賀県立精神保健総合センター，1996年3月19日
- ⑪ワークショップ参加 An afternoon with Dr. Morton Kissen "Reencountering Disowned Parts of the Self in Couple Treatment" The New York Center for Psychoanalytic Training, Long Island Division, Garden City L. I., New York, May, 11, 1966.
- ⑫国際力動的心理療法研究会第2回大会会長，東京，1996年6月15日-16日
- ⑬同上大会，力動的集団精神療法デモンストレーション，東京，1996年6月15日
- ⑭力動的集団精神療法ワークショップ，国際力動的心理療法研究会主催，東京，1996年6月20-23日
- ⑮集中講義「臨床心理学」広島大学学校教育学部，1996年7月11-14日
- ⑯集中講義「臨床心理学特論」広島大学大学院学校教育研究科 1996年7月15-18日

#### 学会・研究団体等における役職

- ①日本集団精神療法学会 学会誌編集委員長
- ②Director, International Association of Dynamic Psychotherapy
- ③日本集団精神療法学会 常任理事
- ④日本集団精神療法学会 研修委員会 専門委員

#### 最近の研究活動

- ①Technique of psychotherapy
  - 1) Individual psychotherapy
  - 2) Group psychotherapy

- 3) Combined psychotherapy
- 4) Pluralistic-integrative psychotherapy
- 5) Case management
- ②Psychodynamics of difficult patients
- ③Training methods of psychotherapy
- ④Trans-cultural psychotherapy

ディヴィッド W. ラッカム 準教授

### **Research Activities**

- The psychological impact of climatological factors.
- Counselling in a cross-cultural context (with Thomas Kennedy, E.Ed., Japan Baptist Mission, Tokyo Japan)
- Psychological considerations in the development of new display consoles for the controller/radar coordinator team in en route air traffic control (with Hiroki Sato, Electronic Navigation Research Institute, Mitaka, Tokyo, Japan)
- Psychology's contribution to the solution of problems on the public agenda

### **Conference Attendances and Activities**

- Annual Convention of the American Psychological Association, Toronto, Ontario, Canada, August, 1996.
- Director, Department of Psychology Colloquium Series, International Christian University, April 1996 to present.

### **Publications**

- Rackham, D.W. (1996). Psychology in the Public Forum - Unity in Service? Educational Studies, 38, 81-107.

### **Other Activities**

- English language services for the Japanese Group Psychotherapy Association and the Japanese Journal of Group Psychology.
- Member, Board of Trustees, American School in Japan (ASIJ)
- Subscription and circulation services on behalf of The Japan Christian Review

- A variety of community services of an educational and service nature in connection with missionary associate/overseas personnel status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan)

## 磯崎 三喜年 準教授

### 研究活動

- ①自己評価維持機制に関する研究
- ②社会的影響過程に関する研究
- ③自己カテゴリー化の視点からみた個人と集団の心理に関する研究

### 学会・研究会発表

- ①名古屋社会心理学研究会 発表「自己価値の視点からみた社会活動」(名古屋大学教育学部) 1996年3月2日

### 研究論文

- ①磯崎三喜年 1995 自己生成的態度変化としての極性化効果とその持続性に関する研究 心理学研究, 66, 161-168.
- ②磯崎三喜年 1995 思考時間が自己生成的態度変化としての極性化に及ぼす効果 愛知教育大学研究報告(教育科学), 44, 319-331.
- ③磯崎三喜年 1996 自己価値と社会行動 愛知教育大学研究報告(教育科学), 45, 165-173.

### 著書・分担執筆

- ①「自己と集団の心理」 磯崎三喜年・小野寺孝義・宮本正一・森和彦(編)『マインド・ファイル』1996 ナカニシヤ出版 pp.131-142.

### 翻訳書

- ①J.C.ターナー 蘭 千寿・磯崎三喜年・内藤哲雄・遠藤由美(訳)『社会集団の再発見』1996 誠信書房 (序, 第5章, 第6章, 第7章担当) pp.i-v, pp.116-225.

### その他

- ①ICU心理学フォーラム発表 「自己価値と社会行動」 1996年5月21日

## 向井 敦子 講師

### 研究活動

- ①脳性麻痺児に対する概念の発達を工作する教授学習過程の実践研究
- ②集合操作にみられる児童の論理的思考過程の検討
- ③記憶の体制化に及ぼす諸要因の検討

### 学会発表

- ①「既有知識との適合性からみたテキスト記憶の体制化」『日本心理学会第59回大会発表論文集』1995年10月, 816頁 於 琉球大学
- ②「児童期前期における肯定文・否定文とその組合せに対する論理的思考過程」『日本発達心理学会第7回大会発表論文集』 1996年3月, 144頁 於 埼玉大学
- ③ “Effect of affirmative/negative sentences on young childrens' logical thinking.”  
XXVI international congress of psychology. Aug 20th. 1996, at Montreal (Canada).  
International Journal of Psychology, 31, p.343.

### 出版

- ①「現代のギャングエイジ——その遊びの変貌がもたらすもの——」『mindixぶらざ』,  
1995年12月, Vol.2, No.2, pp.6-9.

## 〈視聴覚教育研究室〉

### 1. 人の動き

1996年4月： 和田正人, 渡辺功, 池田伸子, 石川勝博, 叶谷彰子, 山王丸浩子が昨年に続き副手に就任した。  
また, 次の副手が辞任した。

1996年3月自辞任：橋本昭恵, 大貫恵理子

### 2. 研究活動

#### (1)日本視聴覚・放送教育学会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚・放送教育学会第2回大会が帝塚山学院大学に

において1995年10月14日から15日にかけて行われた。シンポジウム並びに課題研究は次のようなテーマで行われた。

シンポジウム：「教育メディアの研究に何を期待するか——その領域と方法——」

課題研究1：「インターネットの教育利用」

課題研究2：「博物館とメディア」

## (2)共同研究

中野照海教授、山王丸浩子は、同窓生篠原文陽児（東京学芸大）、北條礼子（上越教育大学）、金城尚美（琉球大学）、鈴木美加（東京外国語大学）、川本佳代（広島市立大学）等と共同で、1989年より1995年まで継続して行った文部省研究委嘱事業「ニューメディア教材の研究開発事業」（日本視聴覚教育協会、中野照海教授座長）の研究報告書（7冊）をまとめる作業とともに、マルチメディアの教育利用に関する1995年以降の新たな文献の収集と要約作りを行っている。

佐々木輝美（獨協大学）、和田正人、海後宗男（国際武道大学）、渡辺功、石川勝博史は阿久津喜弘教授とともに、1995年度電気通信普及財団の助成を得て、「テレビゲーム・パソコン通信・ポケベルなどのメディア利用による子どもの仲間集団形成過程に関する研究」を行った。1996年度からは、1996年度の同団体の助成により「新しい通信メディア利用による子どもの対人関係に関する研究」を行っている。

## 中 野 照 海 教 授

### 研究活動

- ①マルチメディア等の教材の教育利用に関する開発研究——マルチメディア教材のデータベースの開発と活用——（文部省研究委嘱事業・日本視聴覚教育協会、平成7年度主査）
- ②マルチメディア研修計画の推進（文部省研究開発事業助成・日本視聴覚教育協会、平成7・8年度座長）
- ③マルチメディア『人体2——脳と心』の開発（放送文化基金研究助成、平成7・8年度研究分担者）
- ④メディアの構造と利用に関する基礎研究（文部省科学研究費、平成7・8年度研究分担者）



⑤放送大学システムにおけるマルチメディア利用の適用に関する研究（文部省科学研究費、平成7・8年度研究分担者）

上記は研究費助成を得て行っている研究課題であるが、その他もマルチメディア／ハイパーメディアの教育利用に関する研究、視聴覚教育の評価に関する研究、教育過程における画像の機能に関する基礎的研究、教育メディアに関わる海外技術移転の研究（JICA）、人口教育におけるIECのための方略策定に関する研究（JICA）などを進めている。

なお、1988年より1995年まで継続して行ってきた「マルチメディア等の教材の教育利用に関する開発研究」（文部省研究委嘱事業・日本視聴覚教育協会）の成果のまとめと、内外の研究情報の収集とを、東京学芸大学篠原文陽児助教授、視聴覚教育専修課程の在校生と終了生との共同で行っている。

学会発表等

- ①シンポジウム（コーディネーターと司会）「マルチメディアの教育利用——その現状と展望——」日本視聴覚放送教育学会第2回大会（1995年10月14日於帝塚山学院大学）
- ②指定討論者「マルチメディア時代の放送教育」日本視聴覚・放送教育学会研究会（1996年4月27日於江戸川大学）

著作

- ①「マルチメディアの教育利用——その現状と展望——」日本視聴覚放送教育学会第2回大会発表論文集 1995年pp.26-27.
- ②「日本視聴覚教育学会の歩み」「教育メディア研究」2巻2号1996年43-52.

〔専門関係出版物〕

- ①「ネットワーク時代の視聴覚教育の方向——活動と組織のリストラへの示唆」『視聴覚教育』12月号1995年pp.8-10.
- ②「教育におけるマルチメディア活用の意義」『平成8年度マルチメディア教材開発養成講座』文部省学習情報課1996年1月pp.7-14.
- ③「視聴覚教育メディア研修マニュアルの作成」『平成8年度視聴覚教育指導者講座』文部省学習情報課1996年7月pp.18-30.
- ④「人間の発達を規定し促進する道具——視具連の40周年に寄せて——」日本視聴覚具連合会編『視聴覚教育機器ハンドブック97年版』1996年7月pp.10-11頁

- ⑤「マルチメディアによる学習」『マルチメディア開発研究ワークショップ』日本視聴覚教育協会1996年7月pp.8-20.

[専門関連エッセー]

- ①「随想：研究に面白さと感動とを再」『学会通信』（日本視聴覚・放送教育学会）第6号p.1.
  - ②「21世紀に向かう視具連の役割——連結機能と国際協力」『視具連40周年記念集』1996年7月p.1.
  - ③「ブルーナーの視聴覚・放送教育研究への示唆」『学会通信』（日本視聴覚・放送教育学会）第9号（1996年7月）p.1.
- （以下のエッセーは、雑誌『視聴覚教育』の「AVEレポート」欄に掲載したものである。）
- ①サイバーポルノ——インターネットと検閲と教育と——」9月号1995年p.81.
  - ②「メディアの統合的利用計画——態度変容などをめざす——」10月号1995年p.35.
  - ③「バーチャル・クラス——情報社会の教育施設——」11月号1995年p.35.
  - ④「イメージをもとにした行動——情報社会における認識——」12月号1995年p.35.
  - ⑤「教師の資格——教職免許の資格と評価——」1月号1996年35頁
  - ⑥「人間関係を教えること——新たな教育メディアの利用——」2月号1996年p.35.
  - ⑦「温故知新——視聴覚教育研究協議会の頃——」3月号1996年p.35.
  - ⑧「リンカーンの時代からの伝統」4月号1994年p.35.
  - ⑨「行動の基準としての未来予測——マルチメディアの将来——」5月号1996年p.37.
  - ⑩「生涯学習関係指導者の養成——社会教育主事、学芸員、司書の教育と研修——」6月号1996年p.35.
  - ⑪「視具連の40周年——次の新たな10周年に向けて——」7月号1996年p.41.
  - ⑫「教育のメンターについて——日本視聴覚・放送教育学会第1回研究会より」8月号1996年p.37.

その他

[講演・放送等]

- ①巡回指導「テュニジア人口教育促進プロジェクト」（JICA）1995年8月26日－9月7日（テュニス、カセリー、タクウィーン）
- ②講演「社会の情報化に応える学校教育」1995年11月22日私立学校校長研修会（文部省私学行政課）東京・日大本部講堂
- ③審査報告と講評「平成7年度視聴覚教育賞（文部大臣賞）入選論文」1995年12月12日（国立教育会館）

- ④巡回指導「トルコ人口教育促進プロジェクト」(JICA) 1995年12月16日-12月26日  
(アンカラ, シヴァス, ブルサ, イスタンブール)
- ⑤講義「社会の変化に対応する学校教育」1996年1月12日情報教育担当教員研修会(国立教育会館筑波分館)
- ⑥講演「マルチメディアの教育利用」1996年1月26日埼玉県教育工学研究会大会(吹上小学校)
- ⑦講義「マルチメディアの教育的意義と活用」1996年1月29日文部省マルチメディア研究開発ワークショップ(国立教育会館筑波分館)
- ⑧Lecture "Concepts, Methods and Technique of Audiovisual Education." Feb. 1-2, 1996, JICA Okinawa International Center.
- ⑨講演「生涯学習におけるマルチメディアの活用」1996年2月16日高知県生涯学習推進協議会(高知市)
- ⑩講義「社会の変化に対応する学校教育」1996年6月20日情報教育担当教員ワークショップ(国立教育会館筑波分館)
- ⑪講義「視聴覚教育研修マニュアルの作成」1996年7月11日文部省視聴覚教育メディア指導者研修会(国立社会教育研修所)
- ⑫講義「マルチメディアによる学習」マルチメディア研究開発ワークショップ(文部省/視聴覚教育協会) 1996年7月31日幕張メッセ
- ⑬講義「社会の変化に対応する学校教育」1996年8月1日情報教育担当教員ワークショップ(国立教育会館筑波分館)
- ⑭講義「マルチメディアの教育利用の課題」マルチメディア研究開発ワークショップ(文部省/視聴覚教育協会) 1996年8月2日幕張メッセ
- ⑮講演「教育メディアを活用した人びとの学習機会の充実の方策」1996年8月20日中国四国地区教育メディア利用促進協議会(松江市)
- ⑯講演「教育メディアを活用した人びとの学習機会の充実の方策」1996年8月22日東海北陸地区教育メディア利用促進協議会(福井市)

[学会・研究団体・審議会等](\*印を付したものは1995年度末まで, それ以外は現在も継続中)

- ①日本視聴覚・放送教育学会副会長
- ②日本教育工学会理事, 国際協力委員
- ③文部省生涯学習審議会社会教育分科審議会委員
- ④文部省生涯教育審議会教育メディア部会長代理
- ⑤文部省社会教育分科審議会教育メディア部会「視聴覚教育センター・ライブラリー

検討委員会」委員・同委員会草稿作成小委員会主査＊

- ⑥文部省生涯学習局新教育メディア研究開発委員会委員
- ⑦国立放送教育開発センター客員教授
- ⑧国立民族学博物館情報システム委員会委員
- ⑨国際協力事業団トルコ人口教育促進プロジェクト国内委員会委員長
- ⑩同チュニジア人口教育促進プロジェクト国内委員会委員長
- ⑪同ホンジュラス国立教育研究所研究協力委員会座長
- ⑫「視聴覚教育賞（文部大臣賞）」（文部省・日本視聴覚教育協会）選考委員会委員長
- ⑬財団法人日本視聴覚教具連合会会長
- ⑭財団法人日本視聴覚教育協会理事
- ⑮マルチメディア教材コンクール（日本教育新聞社）審査委員
- ⑯日本マルチメディア・フォーラム（JMF・通信機械工業会）・アドバイザーボード委員

## 石 本 菅 生 教授

### 著述

- ①私立大学情報教育協会の情報教育方法研究奨励事業について（1996/3），教育メディア研究2-2, p.75-78  
Promotional Activities for the Study and Research on Instructional Methods Using Computer, taken by Japan Universities Association for Computer Education, (1996/3), Japanese Journal of Educational Media Research, 2-2, p.75-78

### 最近の研究活動

#### ①CAIシステムの開発研究

数年来、主としてCAIプログラムシステムの開発と教材基礎研究用の分析ツールの開発を中心に、コンピュータ支援学習システムの研究を行っている。

#### ②大学における情報教育カリキュラム等についての研究

私立大学情報教育協会情報教育研究委員として、各学問領域の専門教育における情報教育の目指すべき方向の策定を行っており、特に文系における情報教育の方法開発の奨励活動に関与しており、教授方法の評価、審査、論文査読等を担当している。

#### ③入学試験の研究

入試研究主任（1996年3月まで）の職務として、入学試験データと学業せいせきの

関連、合格判定基準の再検討、推薦入学生と一般入学生の学業成績の比較分析、SATの問題項目の配列を容易化するコンピュータプログラムの開発等を行った。

#### 学会研究団体における役職

- ①日本視聴覚・放送教育学会理事 事務局長 1994/7——現在
- ②日本教育工学会編集協力者 1989——現在
- ③社団法人私立大学情報教育協会
  - ・情報教育方法研究会運営委員 1992——現在
  - ・相談助言協力者 1993——現在

#### 阿久津 喜 弘 教授

##### 研究活動

- ①「メディア行動」に関する研究
- ②「教育コミュニケーション研究」の体系化
- ③「メディア利用による子どもの対人関係」に関する研究（電気通信普及財団の研究助成による）

##### 学会発表

- ①「子どものメディア利用と仲間集団との関係についての実証的研究」（佐々木輝美，和田正人，海後宗男，渡辺功，石川勝博との共同研究）日本教育社会学会第47回大会，立教大学新座キャンパス，1995年9月15日～17日
- ②「メディア利用による子どもの仲間集団形成過程に関する研究」（佐々木輝美，和田正人，海後宗男，渡辺功，石川勝博との共同研究）日本子ども社会学会第3回大会，山口県立大学看護学部，1996年6月8日～9日

##### 研究論文等

- ①「子どものメディア利用と仲間集団との関係についての実証的研究」（佐々木輝美，和田正人，海後宗男，渡辺功，石川勝博との共同研究）『日本教育社会学会第47回大会発表要旨収録』1995年9月，31-32頁

##### その他

- ①日本視聴覚・放送教育学会理事・編集委員

- ②日本教育社会学会評議員
- ③日本子ども社会学会理事・研究交流委員
- ④現代生涯教育研究所顧問
- ⑤Deputy Governor, The American Biographical Institute Research Association

### 王淑英 助教授

#### Recent Research Activities :

- ① "The Rise, Expansion and Reaning of Social Studies Instruction: A Cross-National and Longitudinal Study."
- ② "Socialist Market Economy and Non-Formal Education Reform in China"
- ③ "New Perspectives in Teaching in a Transitional Society: the Case pf Hong Kong."
- ④ "Professional Actions and Cultures of Teaching in Post-Modern Japan: Teachers' Work in Changing Context."
- ⑤ "World Culture and Its Effect on the Organization of University Curriculum."

#### Conderence Presentations :

- ① "The Rise, Expansion and Meaning of Social Studies Instruction: A Cross-National and Longitudinal Study." Presented at the 1996 American Sociological Association Annual Meeting, New York, August, 1996.
- ② "Worldwide Changes in the University History Curriculum, 1895-1995," (with David Frank, John Meyer and Francisco Ramirez). Presented at the 1996 American Sociological Association Annual Meeting, New York, August, 1996.
- ③ "World Trends and Cross-National Variation in the University History Curriculum," (with David Frank and John Neyer). Presented at the 9th World Congress of Comparative Education, Sydey, July, 1996.
- ④ "The Confucian Tradition in Contemporary Japanese life: the Case of Education." Invited Keynote Address in Lecture Series, the College Women Association of Japan (CWAJ), Tokyo, February 5, 1996.
- ⑤ "Educating Elites and Citizens: The Meaning of Social Sciences Instruction in Modern Schooling System." Vlth International Conference on Asian Sociology, Beijing, P.R. of China, November 1-5, 1995.

### Publications :

- ① "Empowerment of the Powerless Through the Politics of the Apolitical: Teacher Professionalization in Hong Kong," (with Kai-Ming Cheng). Chapter to appear in Bruce Biddle, Thomas Good and Ivor Goodson (eds.), International Handbook of Teachers and Teaching. Amsterdam: Kluwer Academic Publishers, 1996.
- ② "Teacher Professionalism and the Culture of Teaching in Japan: An Institutional Perspective," (with Fujita, Hidenori). Chapter to appear in Bruce Biddle, Thomas Good and Ivor Goodson (eds.), International Handbook of Teachers and Teaching. Amsterdam: Kluwer Academic Publishers, 1996.
- ③ "Knowledge for the Masses: World Models and National Curricula, 1920-1986," (with John Meyer, et al). Revised and reprinted in Alex Inkeles (ed.), Comparing Nations and Cultures. New York: Prentice Hall, 1995.

### Other Professional Activities :

- ① Research Grant, Ministry of Education, Japan 1994-96 (with Fujita, Hidenori, Tokyo University). Project Title, "Professional Actions and the Culture of Teaching in Japan: Teachers' Work in Changing Contexts."
- ② Journal Reviewer, Sociology of Education, American Sociological Association (since 1992).
- ③ Research Grant Review Committee, University Grant Committee, Hong Kong (since June, 1994)

### 渡 辺 功 副手

#### 研究活動

- ① テレビ暴力番組視聴と子どもの非社会的行動に関する研究
- ② マス・メディア接触における空想志向と現実志向によるアンビバレンスに関する研究
- ③ メディア利用による子どもの仲間集団形成過程および、対人関係に関する研究

#### 学会発表

- ① 1995年9月15日 日本教育社会学会第47回大会（於立教大学）において、「子どものメディア利用と仲間集団との関係についての実証的研究」を阿久津喜弘教授、佐々木輝美（獨協大学）、和田正人、海後宗男（国際武道大学）、石川勝博と共同で発表

した。

- ②1996年6月8日第3回日本子ども社会学会大会（於山口県立大学）において、「メディア利用による子どもの仲間集団形成過程に関する研究」を、阿久津喜弘教授，佐々木輝美（獨協大学），和田正人，海後宗男（国際武道大学），石川勝博と共同で発表した。

#### 著作

- ①「テレビ暴力番組の反社会的行動に与える効果」『教育研究38』（ICU学報Ⅰ－A）1996年，225－226頁。
- ②「子どものメディア利用と仲間集団との関係についての実証的研究」（阿久津喜弘教授，佐々木輝美，和田正人，海後宗男，石川勝博との共同研究）『日本教育社会学会第47回大会要旨収録』1995年9月，31－32頁。

#### 石川 勝 博 副手

#### 研究活動

- ①マス・メディアの「利用と満足」に関する研究
- ②メディア関連欲求に関する研究
- ③メディア利用による子どもの仲間集団形成過程および，対人関係に関する研究

#### 学会発表

- ①1995年9月15日 日本教育社会学会第47回大会（於立教大学）において，「子どものメディア利用と仲間集団との関係についての実証的研究」を阿久津喜弘教授，佐々木輝美（獨協大学），和田正人，海後宗男（国際武道大学），渡辺功と共同で発表した。
- ②1996年6月8日第3回日本子ども社会学会大会（於山口県立大学）において，「メディア利用による子どもの仲間集団形成過程に関する研究」を，阿久津喜弘教授，佐々木輝美（獨協大学），和田正人，海後宗男（国際武道大学），渡辺功と共同で発表した。

#### 著作

- ①「テレビ視聴による欲求充足に関する実証的研究」『教育研究38』（ICU学報Ⅰ－A）1996年，187－223頁。



- ②「子どものメディア利用と仲間集団との関係についての実証的研究」(阿久津喜弘教授, 佐々木輝美, 和田正人, 海後宗男, 渡辺功との共同研究)『日本教育社会学会第47回大会要旨収録』1995年9月, 31-32頁。

## 池田 伸子 副手

### 研究活動

- ①システム・アプローチに基づいた日本語教育カリキュラムの開発
- ②初級ビジネス日本語教育用教材の開発
- ③コミュニケーション・ストラテジー・トレーニングに関する研究

### 学会発表

- ①「昔話を素材としたマルチメディア教材の開発」平成8年度日本語教育学会春季大会 1996年5月27日

### テスト開発

- ①日本語能力試験1級模擬テスト開発

### 著作

- ①「日本人ビジネスマンの話し言葉における語彙調査」『日本語教育』88号, 117-127頁。

## 〈英語教育研究室 English Teaching Department (ETD)〉

The biggest change in the ETD was the retirement of Professor Eichi Kobayashi at the end of March 1996. He had taught at ICU for 42 years and was Chairperson of the Graduate School Division of Education at the time of his retirement.

Discussion continued on the re-structuring and long-term goals of the Department. These discussions, now in their third year, focused on the need for continuity but also substantial change. On the one hand, given the significant developments in the field of language teaching and on the other hand given various personnel opportunities within the Department it is clear that the ETD has found itself at a crossroads. Research was carried

out on the curricula of 27 Universities throughout Japan. The curricula of 6 university programs in language teaching in Australia, Britain and the United States were also examined.

The years of discussion and research bore fruit in the Spring term of this academic year. In May we were able to reach agreement on the curricular changes that were needed and the personnel necessary to staff the proposed curriculum. These were presented to the June meeting of the GSE.

### ランドルフ H. スラッシャー 教授

I continued to work in both the language testing and language teaching areas.

#### Language Testing

I delivered a paper, Five Steps to Increased Scorer Reliability, at the 21st Annual JALT International Conference on Language Teaching/Learning on Nov. 4, 1995. The research project comparing ICU student results on TOEFL (Test of English as a Foreign Language), TOEIC (Test of English for International Communication), and BETA (Businessman's English Test and Assessment) was completed and the results will be reported in at the initial meeting of the Japan International Language Testing Association on December 14. The ILTA (International Language Testing Association) meeting in 1999 is to be held in Japan and I was named to the organizing committee. The organization of JILTA is part of the preparations for that meeting in 1999.

#### Language Teaching

My attempt to apply Sperber and Wilson's Relevance Theory to in the explanation of second language acquisition progressed to the point that I could deliver a paper, Bringing Pragmatics to Bear on the Input Hypothesis and other Second Language Acquisition (SLA) Ideas, on March 22, 1995 at the Tenth Annual International Conference on Pragmatics and Language Learning.

## ジョン C. マーハ 教授

### Research Activity

1. Book in preparation: "Chomsky; a beginners guide". For publication by Icon—Penguin Books, London in November 1996
2. Visit to M.I.T. Cambridge, Mass. U.S.A. for discussion/interview on linguistics and philosophy with Professor Noam Chomsky. March 5–10.
3. Attendance at Symposium in honour of Louis Feraud. Talks by Morris Halle and Noam Chomsky on "Justice, Dissent and Struggle"
4. Dictionary of Place Names. Project: year 3.
5. Language Awareness. Project: year 3.
6. (With H. Giles et al) PacRim International Survey on Intergenerational Communication.

### Professional Activity

1. Executive Board Member of the Sociolinguistics Association of Japan [Shakai Gengogaku Kenkyukai].
2. Review Editor for Journal of Sociolinguistics, Medical Education and Journal of Multilingual and Multicultural Development.
3. Coordinator of Sociolinguistics Association of Japan 1997 Symposium.
4. Coordination of 'LLL' Series of Lectures Language and Linguistics, ICU.

### Articles

"Ainu in Japan: Language Loss, Language Recovery". Bulletin of Asian Cultural Studies 10, 1996, pp.73–95.

"Tagengosei to Tabunkasei" [Multilingualism and Multiculturalism]. In Esunishiti no Shakaigaku [The Sociology of Ethnicity]. Revised Edition. Eds. Nakano H and Imazu K. Tokyo, Sekaisho, 1995. pp.145–159.

### Book Reviews

Review of S. Tamura. Archives on Ainu Phonology: Saru Dialect. Acta Linguistica Hafniensis, 2,5. 1996, pp.5–8.

### Newspaper/Magazine articles

The Yomiuri Daily

1. The "ra" issue: to drop or not to drop. December 4, 1995
2. "Remembering Okinawa's Ryukyuan" January 15, 1996.
3. "Two Multilingual Minutes on the Chuo Line" February 19, 1996.
4. "Pidgins in the Garden" March 15, 1996.
5. "Linguistic Myths". April 15, 1996.
6. "The Korean Language in Japan" May 25, 1996.

#### **Conference/Symposia Presentations**

1. Japan Association of Private Universities. Plenary Address. "Internationalization and the University", Toyohashi, July 1996.
2. Tokyo Institute of Foreign Languages. Lecture. "A Comparison of English and Japanese: Grammar and Phonology" Tokyo, July, 1996.
3. Japan Association of Language Teachers. Kawatsu, Gumma. "Language Awareness", July, 1996.
4. International Conference on Peace Education. Lecture. "Chomsky, Japan and the Language of Apologies" Tokyo, August, 1996.
5. United Nations University and the National Language Research Institute, Discussant. "On Language Policy and Planning in Multilingual Communities" United Nations University, Tokyo, September, 1996.

### **〈ICU教育研究会・ICU教育セミナー〉**

報告者：佐伯孜（3期・院62卒）（都立日比谷高校）

第19回「ICU教育セミナー」が下記の要領で行われた。当セミナーは、主としてICU卒業生の教職者から成る『ICU教育研究会』が夏期に行なう事業で、その前身は、1961年夏から5回程行われた「ICU卒業生教育研究会」である。今回は、絹川正吉学長にも参加して頂き、ICUのliberal artsの方向性についてお話し頂いた。また、毎回多数の学部生・院生が参加するが、プログラムの外においても、先輩後輩という内輪の関係で、教育現場の情報収集、卒論・修論等での相談・依頼等、現職者だけでなく、未来の教職者を含めた大きな広がりを持つ会となっている。以下がプログラムの概要である。

日時：1996年8月5日午前9時～6日午後5時

場所：ホテル・フロラシオン青山（旧青山会館）

参加者：64名（内ICU学部・院生19名）

〔第1日〕

- (1) 全体会1「私の理想の教師像」（自己紹介をかねて、一人2～3分）

司会：増田素子（フェリス女学院中・高）

- (2) 全体会2「不登校とその背景」

発題：野草三千代（都立成瀬高）・町田健一（ICU）

司会：気賀澤保代（都立第一商業高）

- (3) 会科会1（全体会2での発題に基づいて3つの分科会で討議）

〔第2日〕

- (4) 分科会2

- ①「国際理解教育をどう進めるか」

発題：石井由理（ロンドン大学大学院修了）

司会：松崎信也（神奈川県立光陵高）

- ②「教育の場で“評価する”とはどういうことか」

発題：眞保俊哉（都立調布北高）

司会：山口和孝（埼玉大）

- ③「キリスト教主義学校の現状と課題」

発題：荒井偉作（自由学園中・高）

司会：細井教生（ICU高）

- ④英語教育におけるaural-oralの指導

発題：下平哲彦（長野県立伊那弥生ヶ丘高）

司会：山本美智留（ICU高）

- (5) 全体会3「中高大を通じて、今こそliberal artsを考える—中高の選択化・類型化を問い直す」

発題：絹川正吉（ICU, 学長）・吉田道郎（都立神代高）

司会：立川明（ICU）

- (6) 総会 司会：佐伯孜（都立日比谷高）

## 〈研究員 I〉

影山 礼子

### 研究活動

- ①石原謙，井深梶之助，神谷美恵子，アンナ・H・キダー，斉藤勇，沢山保羅，その他キリスト教教育について執筆した（『日本歴史大事典』小学館）。
- ②「高等教育における専攻分野のジェンダー論的研究」（1995年度文部省科学研究費総合研究A，共同研究）について，5年間の調査研究の成果をまとめた。1996年度文部省科学研究費出版助成を得て，「女性の理系能力を生かすー専攻分野のジェンダー分析と提言」（日本評論社）を1996年10月に出版。
- ③「女子大学の国際比較研究ー日本・韓国・米国の事例を中心に」（1996～98年文部省科学研究費基盤研究C）のテーマで研究中である。事例の1つである米国マサチューセッツ州ウェルズリー・カレッジにて8月24日～9月10日まで現地調査した。
- ④1994年度に調査したE. G. Philipps（英国ケンブリッジ大学ニューナム・コレッジ）の資料をまとめた。
- ⑤J. デューイとエヴリン・F・ケラー（マサチューセッツ工科大学教授，科学史家）の思想の類似点についての外国の研究動向に関心をもち，研究中である。

### 学会発表および参加

- ①1995年10月9日～10日 教育史学会第39回大会（新潟大学）に参加した。
- ②1995年10月14日～15日 教育哲学会第38回大会（広島大学）に参加した。
- ③1996年5月25日 日本キリスト教教育学会（女子学院）にて司会を担当した。
- ④1996年6月8日 「W. J. タッカーと成瀬仁蔵」のテーマで研究発表した。渋沢研究会（明治大学）

### 研究論文

- ①「渋沢栄一のヴィジョンと行動ー経済観・対外観・教育観を中心として」（第2回渋沢研究会シンポジウム報告）『渋沢研究』第8号，渋沢史料館，1995年10月
- ②'William Jewett Tucker: His Christian Thought and Activity - The Impact of Tucker on the Educational Thought of Jinzo Naruse and its Development'『国際武道大学研究紀要』第11号，1996年3月
- ③「高等教育における専攻分野のジェンダー論的研究」（1995年度文部省科学研究費報

告書別刷) 1996年3月

#### その他

- ①国際基督教大学アジア文化研究所リサーチ・フェロー
- ②渋沢研究会運営委員, 編集委員
- 『渋沢研究』第9号責任編集者

### 川 津 茂 生

#### 研究活動

- ①対称図形の知覚に関する実験的研究
- ②視覚的探索における非対称性 (いわゆる探索非対称性) に関する実験的研究
- ③認知心理学における “Representation” の定義に関する研究
- ④認知科学の基礎に関する理論的研究

#### 学会参加, 発表

- ①日本心理学会第59回大会参加, 1995年10月11-13日, 沖縄コンベンションセンター
- ②日本認知科学会参加, 1996年6月20-22日, 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)
- ③日本視学会参加, 1996年7月28-30日, 河口湖

#### 研究論文

- ①A self-contradictory concept presents a problem to Cognitive Science. (1996)  
国際基督教大学学報1-A 「教育研究」38, 183-186
- ②対称図形と非対称図形の弁別 (1996) 国際武道大学紀要11, 123-125

### 松 田 憲

#### 研究活動

- ①留学前後における異文化理解及び曖昧耐性の変化に関する研究
- ②テレコミュニケーション技術を用いた国際遠隔教育に関する研究

## 学会発表

- ① "International Distance Education Using Telecommunications Technology  
- An Experimental Study at Asia University -" Pacific Telecommunications Conference  
'96 in Hawaii. January 17, 1996. Honolulu, Hawaii.
- ② "Using Role Play in the Lower-Level Language Classroom"  
Tokyo JALT Spring Conference. February 25, 1996. Tokyo Keizai University, Tokyo.
- ③ "International Distance Education Utilizing Telecommunications Technology: An  
Experimental Study at Asia University" 第36回語学ラボラトリー学会全国研究大会  
(拓殖大学) 1996年7月31日

## 研究論文

- ① 「日本人英語学習者における読解認識と読解ストラテジー分析」比較文化研究No.30,  
pp.97-111, 1995年12月20日
- ② "Community Language Learning: The Learners' Needs and the Learner-Centered  
Approach" ELERI JOURNAL No.4, pp.111-127. 1995年3月15日
- ③ "The Three Interrelated Japanese Concepts: *Gambare*, *Amae*, and *Giri*  
- How Do They Affect Japanese Children's Academic Performance? -" 亜細亜大学日本  
文化研究所紀要 No.2, pp.244-254.

## 大井 直子

## 研究活動

- ① 価値観研究
- ② 高齢者の健康と生活に関する縦断的・比較文化的研究  
1996年1月16日に教育学研究科博士後期課程委員会において博士学位請求論文最終  
試験の合格を承認され、3月22日に博士(教育学)号を授与された。

## 研究論文

「ライフ・サイクルと対応する価値志向の縦断的研究ーパーソナリティの発達の観  
点からー」国際基督教大学大学院教育学研究科提出博士論文 1996年

## その他

ICU心理学研究室フォーラム (1996年2月15日 於 国際基督教大学)



## 「ICUの過去・現在・未来」

## 岡 林 秀 樹

## 研究活動

1996年6月より4カ月間ミシガン大学老年学研究所へ短期留学。

- ①高齢者の生活と健康に関する心理学的研究（於 東京都老人総合研究所保健社会学部門）
- ②大学生の価値観研究（原一雄・大井直子との共同研究）
- ③学生による授業評価表の分析（於 一般教育主任室）
- ④私学の「建学の精神」に関する調査研究（町田健一・目黒賢哉・高瀬香織との共同研究）
- ⑤英語のスピーキングテストにおけるIRTの研究（中村優治との共同研究）

## 学会発表

- ①岡林秀樹：大学の授業における教授法と学生の満足度との因果モデル。日本教育心理学会第37回総会。水戸，1995.9.28-30
- ②岡林秀樹 杉澤秀博 中谷陽明 矢富直美 高梨薫 深谷太郎 柴田博：老年期における配偶者との死別経験と精神的・身体的健康の変化との関係および社会的支援態勢の緩衝効果。日本老年社会学会第37回大会，大阪，1995.10.18-20
- ③大井直子 岡林秀樹 原一雄：大学生の価値観（12）—30年後の追跡研究に見られた人生観の統合に関して—。日本心理学会第60回大会，東京，1996.9.10-12
- ④深谷太郎 杉澤秀博 中谷陽明 矢富直美 高梨薫 岡林秀樹 柴田博：縦断調査におけるパネルからの脱落者の特性。日本老年社会学会第37回大会，大阪，1995.10.18-20
- ⑤福島道子 高梨薫 杉澤秀博 岡林秀樹 奥山正司 五十嵐雅美：在宅介護家族におけるボランティア活動の利用実態と期待—脳血管疾患後遺症患者・家族の調査—。日本保健医療社会学会第22回大会，東京，1996.5.18-19

## 研究論文

- ①岡林秀樹：大学生の価値志向と教育環境の時代的変遷。国際基督教大学教育研究，38，109-156，1995
- ②町田健一 岡林秀樹 原田一成 目黒賢哉 高瀬香織：私立高等学校の「建学の精

神」に関する研究。国際基督教大学教育研究, 38, 41-62, 1995

## 吉米地 憲 昭

### 研究活動

- ①スクールカウンセリングの実践について
- ②伝記を資料として, 人間の心と人格がどのように形成されるかについての研究

### 学会発表等

- ①シンポジスト「若者たちの人間関係の希薄化と宗教」シンポジウム『現代の若者たちと宗教』第29回全国学生相談研究会議, 金沢大学, 1996年1月19日

### 著作活動

- ①「大学学生相談室のカウンセラー」三木善彦・黒木賢一編著『カウンセラーの仕事』朱鷺書房, 1995年9月, 109-116頁
- ②「カウンセリングセンターは忙しいですか?」全国学生相談ガイド, 実務教育出版, 1996年4月, 6-7頁
- ③「私立大学・短期大学における実践」松原達哉編『スクール・カウンセリング読本』教育開発研究所, 1996年7月, 135-138頁
- ④「若者たちの人間関係の希薄化と宗教」第29回全国学生相談研究会議報告書, 1996年3月, 88-90頁

### その他の活動

- ①「情報化社会と青少年の心の問題」国際市民大学, 国際基督教大学, 1995年9月30日
- ②「学生相談総論」第33回全国学生相談研修会, 国立教育会館, 1995年11月28-30日
- ③「現代のいじめは社会問題であり, 個々人が抱える問題である」ICU基督教週間F-S Talk, 1996年5月21日
- ④「カウンセリング実習」神奈川県立教育センター『教育相談研修講座』1996年8月6日

## 渡 部 淳

### 研究活動

- ①日本における国際理解教育の展開とその教育史的意義
- ②社会科教育における教育方法の国際比較

### 著作（単行本）

- ①単著『国際感覚ってなんだろう』（岩波書店）1995年11月20日  
岩波ジュニア新書 209頁
- ②共著『学びの復権 ——授業改革』,「講座 高校教育改革（全5巻）」第2巻,（労働旬報社）1995年10月20日 15～37頁 分担執筆
- ③共著『変容する社会と学校』,「講座 学校（全7巻）」第3巻,（柏書房）1996年4月8日 149～178頁 分担執筆

### 論文その他

- ①「生徒のアジア認識はどう変わったか～“探検・発見・ぼくらのアジア”を通して」『高校生活指導』（青木書店）1995年12月号 98～103頁
- ②「ディベート教育と道徳的価値判断の問題」『教育』（国土社）1996年4月号 42～50頁
- ③「連載 世界の生徒指導」『月刊 生徒指導』（学事出版）
  - 5月号「先生と生徒の関係」 70～73頁
  - 6月号「学校のあたえる“罰”」 72～75頁
  - 7月号「生徒代表の誇り」 86～89頁
  - 8月号「スクール・カウンセラーが欲しい理由」 72～75頁
- ④随筆「政経“演劇”クラスの楽しさ」『演劇と教育』（晩成書房）1996年1月号 1頁
- ⑤随筆「自主性を育てるコーチング」『リーダーの友』No.186（ガールスカウト日本連盟）1996年3月1日 2頁
- ⑥インタビュー「“獲得型授業”で自己表現力と連帯感を育む」『教職課程』（協同出版）1996年2月号 66～69頁
- ⑦インタビュー「生徒たちの海外教育体験に触発されて」『月刊 生徒指導』（学事出版）1996年4月号 70～79頁

## 研究発表

- ①異文化間教育学会・特定課題研究発表者「異文化間リテラシーを探る」1996年6月1日（上智大学）

## 講演など

- ①司会者 教育科学研究会「D・セルビー教授の人権・環境・グローバル教育ワークショップ」1995年10月14日（筑波大学付属高等学校）
- ②シンポジスト 第43回全国私学教育研究集会「私学の国際教育の現在と未来」1995年10月27日（横浜国際女学院翠陵高等学校）
- ③助言者 日本国際理解教育学会「1995年度研修会」高等学校分科会 1995年11月11日（筑波大学付属高等学校）
- ④講演 東都生協セミナー「ディベート入門」1996年1月23日（東都生協さんぽんすぎセンター）
- ⑤講演 目白学園・国際教育委員会「学習方法の国際化——“演劇知的”をめぐって」1996年6月4日（目白学園高等学校）
- ⑥司会者 全国私立中学高等学校「第18回国際教育研修会」1996年6月19日～20日（私学会館）
- ⑦司会者 日本国際理解教育学会「第6回研究発表大会」理論・総合研究分科会 1996年6月23日（帝塚山学院大学）

## その他

- ①日本国際理解教育学会 常任理事（紀要編集担当）
- ②異文化間教育学会 幹事（研究担当）
- ③全国私立中学高等学校国際教育研修会 専門委員
- ④東京大学，東京都立大学，ルーテル学院大学 非常勤講師

## 〈研究員Ⅱ〉

権 藤 桂 子

## 研究活動

- ①博士學位論文研究：言語獲得期の音声位と伝達機能の関連についてのデータ分析お

よび論文執筆。

- ②ダウン症児の療育場面におけるコミュニケーション行動に関するフィールドワーク  
および行動分析。
- ③統合保育における発達相談。
- ④言語獲得期のこどもと母親の音声コミュニケーション行動の同調性に関する研究。
- ⑤先天性聾児の人工内耳移植手術後の音声コミュニケーション行動の発達過程の研究。

#### 学会発表

権藤桂子・白木久美子「一日の療育場面におけるコミュニケーション行動の様相」日本特殊教育学会第33回大会発表論文集p.314-325, 1995

権藤桂子「1才児における発話機能と発声のイントネーションの関連について(2)」日本教育心理学会第37回大会発表論文集p.511, 1995

権藤桂子「母子間の発声の同調性の発達的变化」日本発達心理学会第7回大会発表論文集p.11, 1995

#### 論文・著作

権藤桂子「幼児教育の中の教育心理学：発達相談，カウンセリングの視点から」エデュ・ケア21, 1996年6月。

権藤桂子・安藤百枝「自閉傾向のある幼児のフォーマット展開要因」インリアル研究第7号 1996年6月。

石井 由理 (1996年7月より)

#### 研究活動

- ①ノルウェー，オーストラリアの学校カリキュラム
- ②イギリスの社会，文化

#### 学会参加

9th World Congress of Comparative Education Societies

## 上別府 隆 男

### 研究テーマ

異文化・国際教育及び途上国の教育開発における政策について

### 研究活動

- ①メリーランド大学教育学部教育政策・計画・管理学科博士課程在籍 (Social Foundations of Education and Education Policyコース)。1995年9月～。
- ②School for International Training (バーモント州) において修士号 (Master of International and Intercultural Management) 取得 (1996年5月)。

### 学会発表

Comparative and International Education Society第40回大会 (バージニア州ウィリアムズバーグ, 1996年3月6～10日) において論文発表 (“Education, Identity and Social Integration of Minority Group: The Case of Burakumin in Japan”)。

### 研究論文

- ①“Quality Assurance Policy in Higher Education: Comparative Study of Japan and the United States” (1996) University of Maryland at College Park.
- ②“Albanian Teachers as Change Agents: Managing Educational Transition” (1996) University of Maryland at College Park.
- ③“Educational Transition from Colonial Rule to Independence—Its Complexities and Interpretation: The Case of Zimbabwe” (1995) University of Maryland at College Park.
- ④“Diversity Policy of Montgomery County Public Schools” (1996) University of Maryland at College Park.

### その他

- ①メリーランド大学教育学部教育政策・計画・管理学科Graduate Research Conference 参加 (1995年11月18日)。
- ②ブルッキングズ研究所Japan Roundtable出席 (ワシントンDC, 1996年1月22日)。
- ③1996年JETプログラム・オリエンテーション講師 (ワシントンDC, 1996年6月15日)。

## 叶谷 彰子

### 研究活動

マルチメディア教材を用いた学習に関する研究

### 学会参加

#### ①日本教育工学会

(1995年11月3～4日 埼玉県 十文字学園女子短期大学)

#### ②第27回月惑星科学会議科学教育特別セッション

(1996年3月19, 21日 テキサス州ヒューストンNASA/ジョンソン宇宙センター)

## 小島 文英

### 研究活動

#### ①国際基督教大学研究助成基金補助金による「諸外国における高等教育機関の選抜制度についての調査」(共同研究)

現地調査 カナダ・アメリカ 1996年3月 7-24日

イギリス・フランス・スイス 1996年7月10-25日

### 研究論文

千葉果弘・小島文英『諸外国における高等教育機関の選考制度』国際基督教大学教育研究所 (1996)

### 学会発表

#### ①「アジア近隣諸国の大学入試制度の比較研究」日本比較教育学会第32回大会(青山学院大学 1996年6月14-16日)

#### ②「日本の大学における国際理解教育：学生の授業評価にみられる学生の途上国に関する意識の調査」(共同研究)日本国際理解教育学会第6回大会(帝塚山学院大学 1996年6月22-23日)

#### ③“International Literacy Watch: Warning Against Lip Service”(千葉果弘著)を1996 World Conference on Literacy (Philadelphia, PA March 12-15, 1996) において紹介。

### その他

#### ①日中書法研究交流会の日中友好交流書道展(旧東京都調布市中央公民館 1995年9月)

- 28-30日)ならびに合同実技研修(本学 1995年10月1日)開催への協力  
 ②中国長春市スタディー・ツアー(主催:日中書法研究交流会 1996年6月26日-7月4日)開催  
 ③東京都調布市社会教育委員

## マタノ 石田 純子

### 研究活動

海外在住経験のある者及び留学生における友人関係とサポートについて  
 環境移行に伴う適応の過程について  
 クロスカルチャルカウンセリングの方法と有効性について

### 学会発表

- ①石田純子, 斎藤哲「留学生の対人関係(ソーシャル・サポートを介した友人関係についての調査)」日本発達心理学会第7回大会 1996年3月30日  
 ②小島文英, 石田純子, 千葉果弘「日本の大学における国際理解教育: 学生の授業評価にみられる学生の途上国に関する意識の調査」  
 国際理解教育学会第6回大会 1996年6月23日

## 南之園 博 美

### 研究活動

- ①昨年より継続して, 国際基督教大学大学院教育学研究科(博士後期課程3年)の池田伸子氏と, 日本語教育用読解教材を共同開発中。  
 ②同上 池田伸子氏と, 日本語の読解における語推測能力に関する実験研究を実施, 分析中。

### 学会参加

- ①1996年6月22日  
 国際日本語普及協会主催の『日本語教師のための公開研修講座 日本語のコミュニケーション能力を高めるために 一談話展開の要素を見る一』(於 昭和女子大学)に参加。



②1996年7月31日

文化庁主催の『「これからの日本語教育を考える」衛星通信シンポジウム』（於：昭和女子大学）に参加。

## 杉山 恵理子

### 研究活動

精神分裂病者に対する集団精神療法の技法，治療要因，効果についての研究

### 学会発表

分裂病の集団精神療法：治療者の欠席を巡る一考察

日本集団精神療法学会第13回大会 口頭発表 於：調布市文化会館たづくり。1996.3.30

### 研究論文

集団精神療法効果の実証的研究の成果

筆頭執筆者：西村馨，連盟執筆者：小谷英文，井上直子，西川昌宏

集団精神療法 11(2) 147-153, 1995

## 田中 幸子

### 研究活動

①コンピュータ支援による英語学習に関する研究

②英語学習用マルチメディア・ソフトの評価リストに関する研究

### 学会参加

①電子情報通信学会 於：中央大学（参加） 1995年9月5日

②日本教育工学会研究会 於：三重大学（発表） 1995年12月9日

『英語学習用マルチメディア・ソフトの評価』

日本教育工学会研究報告集JET96-6, pp.13-18 (1995)

[上記発表内容は慶応大学大学院政策・メディア研究科『マルチメディア外国語学習システムの開発と評価』IEI-M 95-023 ISBN 906483-74-7(1996)p228に関連研究として参照された。]

③情報処理学会 於：電気通信大学（参加） 1996年3月9日

④電子情報通信学会 於：東京工業大学（発表）1996年3月29日

『英語学習用マルチメディア・ソフトの評価リストの一提案』

電子情報通信学会総合大会講演論文集 情報・システム1 p286 (1996)

⑤コンピュータと教育研究会 於：慶応大学藤沢キャンパス（参加）1996年5月24日

⑥語学ラボラトリー学会 於：拓殖大学（発表）1996年7月30日

Evaluation of CALL Multimedia Software

LLA第36回全国研究大会発表要項 pp.118-121 (1996)

#### 研究論文

①Evaluation of CALL Multimedia Software（横浜国立大学教育学部大学院修士論文  
1996年7月）

#### その他

①“STATISTICAL REASONING IN PSYCHOLOGY AND EDUCATION”の講読および  
研究論文について石本菅生教授に指導を受けた。

②「マルチメディア教材研究開発」に関し、中野照海教授に指導を受けた。

## IV. 大学院教育学研究科修士論文

### A. 教育哲学

#### 1. 田山 裕丈

The Contributions of Social Work to Adult Education in India  
Context: A Case Study of 'Total Literacy Campaigns' and  
'Functional Literacy for Self-Reliance' in Tukkanatti Village  
インドの成人教育へのソーシャルワークの貢献：

カルナータカ州，トゥカナッティ村における「トータル・  
リテラシー・キャンペーン」と「自立のための機能的識字  
事業」に関する一考察

#### 2. 王勳瑜

A Study of the Attitudes Toward Initial Foreign Language  
Learning (English)

-A Comparasion between Japanese and Taiwanese Junior High  
School Students: A Case Study in Tokyo and Taipei

初めての英語学習における研究

—東京と台北のケース・スタディに基づいた日本と台湾の  
中学生の比較研究—

3. 増山 晶子

An Empirical Study of the Practice of Speech Communication  
Education in Japanese Classrooms

—An Observation of Students' Self-awareness toward Their  
Presentation Styles—

日本の教育現場におけるコミュニケーション能力獲得のた  
めの音声言語教育の実践と発展の実証的研究

—プレゼンテーション時における生徒の自己意識の観察を  
通して—

<1996年3月卒業>

4. 佐々木 美和子

倫理的相対主義批判としてのコールバーグ認知的道徳性発  
達理論

A Study of Kohlberg's Cognitive-Developmental Theory of  
Moral Development from the Point of View of Ethical  
Relativism

<1996年6月卒業>

## B. 教育心理学

5. 星野 法昭

青年期における攻撃性と親子間力動に関する一考察

A Study of Aggression in Adolescence and Parent-child  
Dynamics

6. 岡田 恵美子

集団精神療法初期過程における集団抵抗の力動についての  
一研究

A Study on the Dynamics of Group Resistance at Initial Phase  
in Group Psychotherapy

7. 滝口 恵美

学校の危機介入技法に関するシステム論的考察

A Study on Crisis Intervention Technique of Schools from a  
View Point of the Systems Theory

8. 青山 浩子

幼児期における自己概念の発達と反抗行動の関連

—自我強化作業・心理・危機としての反抗の意義—

The Relation of Self-Concept Development and Defiance in

the Early Childhood:

A Significance of Defiance as Ego Strengthen-work and Psychological Crisis

9. 加藤 直子

成人女性における女性性と育児困難傾向との関わりについて

—エディプス・コンプレックスの視点より—

On Femininity in Adult Women and Tendency of Difficulties in Mothering

—From the Point of Oedipus Complex—

10. 甲田 真砂子

速読場面における認知機能の特徴的パターンについて

—読書スピード, 理解度, アイマークの動きから—

Characteristic Patterns of Cognitive Functions in the Situation of Speed-Reading: From the Aspects of Reading Speed, Comprehension, the Movement of Eyemark

11. 夏目 恵美子

A Study of Social Distance and Cosmopolitanism as a Function of Psychological Aspect of Internationalization among University Students

心理学的視点から捉えた国際化の指標としての社会的距離とコスモポリタニズムについての大学生の間での一考察

12. 横山 祐子

教師の負のフィードバックに対する中学生の反応と自尊心との関係についての一考察

A Study of the Effect of Self-Esteem on Junior High School Students' Reaction to Teachers' Negative Feedback

<1996年3月卒業>

13. 山岸 可奈

統制の位置と援助行動の動機づけに関する一考察

A Study of Locus of Control and Motivation of Helping Behavior

<1996年6月卒業>

C. 視聴覚教育法

14. 橋本 昭恵

基礎的技能の自動化に関する実証的研究

—初級日本語学習者の発話技能—

An Empirical Study on Automatizing a Basic Skill

—Speaking Skill of Elementary Japanese Language Learners—

15. 笠井 洋子      テレビ接触による教化に関する実証的研究  
An Empirical Study of the Relationship between Television Exposure and Cultivation
16. 大貫 恵理子      日本語教育の漢字学習における, コンピュータを用いた部首教材の開発と効果について  
A Development Study of Computer-based Material for Learning Radicals for Japanese Language Education and Its Effect
17. トリガー, ジェン P.      The Development and Formative Evaluation of Hypertext Reading Software for Learners of Japanese  
日本語読解用ハイパテキスト教材の開発と評価  
＜1996年3月卒業＞

#### D. 英語教育法

18. 北川 宣子      A Comparative Study of Baby Talk and Regional Dialect  
—Finding a Common Shift in Pronunciation—  
幼児音と方言音の比較研究  
—音声のシフトにおける共通性—
19. 廣瀬 悦子      A Relevance—Theoretical Approach to Subtitle Translation  
関連性理論による字幕翻訳の考察
20. 河津 直子      Language Attitudes toward Foreign Borrowing in Japanese: A Case Study of Linguistic Purism  
日本語の中の外来語に対する意識に関する一考察:  
言語純粋主義の立場から
21. 小林 潤子      On the Sense of Crisis about Language: Paradigms of Attachment and Detachment  
言語への危機感に寄せて  
—付着と分離のパラダイム—
22. 森 道代      Conversation Analysis of Writing Conferences between English Speaking Teachers and Japanese EFL Students  
ライティング個人指導における英語ネイティブ教師と日本人英語学習者との会話分析
23. 山本 多恵子      Use of Contextual Information by Japanese Students in English Reading Comprehension

—An Attempt to Apply Relevance Theory to EFL Reading—  
日本人学生の英文理解における分脈情報の使用（関連性理論の読解への応用の試み）

<1996年3月卒業>

24. 蒺木 徑子

The Art of Sympathy: A Sociolinguistic Analysis of Condolence Letters in English and Japanese

慰め表現：日英語におけるお悔やみの手紙の社会言語学的分析

<1996年6月卒業>

## IV. 大学院教育学研究科博士論文

### A. 教育心理学

1. 大井 直子

ライフ・サイクルと対応する価値志向の縦断的研究  
—パーソナリティの発達の観点から—

A Longitudinal Study on Value Orientations in the Life Cycle :  
From the Developmental Perspective of Personality

<1996年3月学位授与>

## V. 教育実習報告

### 1. 教育実習報告

1996年度には62名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

#### 1) 実習生総数62名

男 子 9名

女 子 53名

#### 2) 実習日程及び実習校

5月20日～6月1日 神奈川県立希望が丘高等学校

5月22日～6月6日 敬和学園高等学校（新潟）

5月27日～6月8日 筑波大学付属盲学校（東京）、山形県立鶴岡南高等学校、新潟県立新発田高等学校、基督教独立学園高等学校（山形）、桐朋女子中学校・高等学校（東京）

6月1日～6月14日 大阪女学院高等学校（大阪）、国際基督教大学高等学校（東京）、愛媛県立宇和島東高等学校

6月1日～6月15日 神奈川県立生田高等学校

6月3日～6月15日 四街道私立四街道北中学校（千葉）、大宮市立宮前中学校（埼玉）、湘南白百合学園中学校（神奈川）、宝仙学園中学校（東京）、清教学園中学校（大阪）鷗友学園女子中・高等学校（東京）、京華女子中学校・高等学校（東京）、恵泉女学園高等学校（東京）、千葉県立柏南高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、愛知県立西尾高等学校、東京都立西高等学校、城北埼玉高等学校（埼玉）、神奈川県立足柄高等学校、徳島県立城南高等学校、北陸学院高等学校（石川）、神奈川県立秦野曾屋高等学校、東京都立八王子高陵高等学校、埼玉県立久喜北陽高等学校、聖隷学園高等学校（静岡）、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立甲府昭和高等学校、東京都立狛江高等学校

6月7日～6月21日 所沢市立上山口中学校（埼玉）

6月10日～6月21日 三鷹第二中学校（東京）、北海道稚内高等学校

- 6月10日～6月22日 横須賀市立武山中学校, 昇華学園中学・高等学校 (東京), 女子聖学院中学高等学校 (東京), 自由の森学園高等学校 (埼玉)
- 6月17日～6月29日 清泉女学院中学・高等学校 (神奈川), 官城県立官城第一女子高等学校
- 9月2日～9月13日 梅光女学院高等学校 (山口), 神奈川県立厚木高等学校
- 9月3日～9月18日 お茶の水女子大学付属中学校
- 9月4日～9月17日 活水高等学校 (長崎)
- 9月9日～9月21日 三鷹第二中学校 (東京)
- 10月18日～10月31日 西南女学院中学校・高等学校 (福岡)
- 10月31日～11月14日 国際基督教大学高等学校 (東京)



## 3) 実習参加学生学科別内訳

学科 \ 性別	男	女	計
人 文 学 科	1	4	5
社 会 学 科	1	7	8
理 学 科	1	6	7
語 学 科	2	16	18
教 育 学 科	2	12	14
国際関係学科	0	8	8
教育学研究科	0	0	0
行政学研究科	1	0	1
理学研究科	1	0	1
比較文化研究科	0	0	0
科目等履修生	0	0	0
合 計	9	53	62

## 4) 実習生教科別内訳

教科 \ 性別	男	女	計
社 会	5	13	18
理 科	1	3	4
数 学	1	3	4
英 語	2	34	36
宗 教	0	0	0
合 計	9	53	62

## 2. 教員免許状取得状況報告

1996年3月卒業生528名（学部462名，大学院66名）の内，一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

## 1) 教養学部学科別教員免許取得学生数 (科目等履修生は除く)

種別 学科	取得者実数	中一種	高一種
人文学科	0	0	0
社会科学科	6	3	6
理学科	7	4	5
語学科	18	18	18
教育学科	15	10	15
国際関係学科	3	3	3
合 計	49	38	47

## 2) 教養学部教科別教員免許状取得学生数 (科目等履修生は除く)

教科 種別 学科	社会	地理・歴史	公民	数学		理科		英語		宗教	
	中一	高一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人文学科											
社会科学科	2		5					1	1		
理学科				2	2	3	5				
語学科								17	18		
教育学科	1	2	4					9	9		
国際関係学科	1		1					2	2		

## 3) 大学院教員免許状取得者数

研究科 専攻科	種別	中一	高一	中専	高専
教育学研究科	教育哲学専攻				
	教育心理学専攻				
	英語教育専攻			1	1
	視聴覚教育専攻				
行政学研究科	行政学専攻			1	1
比較文化研究科	比較文化専攻	1	1		
理学研究科	基礎理学専攻		1		